

「第53回JXTG児童文化賞」および「第48回JXTG音楽賞」の贈賞理由ならびに各受賞者のプロフィール

1. 第53回 JXTG児童文化賞

奥本 大三郎（おくもと だいさぶろう）
作家・フランス文学者



撮影：島袋智子

◆ 贈賞理由 ◆

子どものころから虫に魅せられ、長じてフランス文学者となった奥本 大三郎氏は、30年の歳月をかけて昨年ついに『完訳版ファーブル昆虫記』（全10巻20冊）の大著を完成するという歴史的な偉業を成し遂げた。その間、『ジュニア版ファーブル昆虫記』（全8巻）を刊行するなど、子どもたちにファーブルの世界を紹介しながら虫の生態の不思議さや面白さを伝えるとともに、ファーブル昆虫館「虫の詩人の館」を開館し、自ら館長として様々な企画と運営に関わり続けている。このような活動を通して、子どもたちに自然の素晴らしさと虫たちが暮らせる環境の大切さや科学的思考の楽しさと必要性を伝え続けている。これらの功績が高く評価されて今回の贈賞となった。

（児童文化賞 選考委員会）

◆ プロフィール ◆

大阪府生まれ。東京大学仏文科卒業、同大学院修了。フランス文学研究・教育に携わり、ボードレー、ランボーなどの象徴派詩人の研究を専門とするフランス文学者で、大阪芸術大学教授、埼玉大学名誉教授を歴任。幼少より虫を愛好し、1991年より2010年まで日本昆虫協会会長、2002年よりNPO日本アンリ・ファーブル会理事長、ファーブル昆虫館「虫の詩人の館」館長を務めている。主な著書に『虫の宇宙誌』、『楽しき熱帯』、『斑猫の宿』、『星の王子さま』、『散歩の昆虫記』、『ぼくらの昆虫記』など、昆虫に関する著書・翻訳が多数ある。近年、『ジュニア版ファーブル昆虫記』の翻訳に続き、『完訳版ファーブル昆虫記』を30年の歳月をかけて刊行した。現在、朝日小学生新聞にて『ファーブル先生の昆虫教室』を連載している。

◆ 主な受賞歴 ◆

1982年 第33回読売文学賞
1992年 第39回産経児童出版文化賞
1995年 サントリー学芸賞
2001年 第10回JTBの旅文学大賞
2017年 第65回菊池寛賞

2. 第48回 JXTG音楽賞 邦楽部門

杵屋 勝国 (きねや かつくに)
長唄 三味線方



◆ 贈賞理由 ◆

杵屋 勝国氏は若い頃から七世杵屋勝三郎師の薫陶を受け、長唄の古典にふさわしい優れた音楽性を獲得した。現在、歌舞伎における長唄の中心的な音楽家として、長唄を歌舞伎に相応しい壮大な様式で演奏している。それと同時に、その演奏は細部まで見事に調整されたもので、音色の多様な変化と繊細な表現を兼ね備えている。このように大きさと繊細さの双方をもった演奏様式は、とくに《船弁慶》や《虎狩》などの二世杵屋勝三郎の代表的な大作の演奏で見事に発揮される。勝国氏はさらに長唄三味線のための現代音楽でもその名人芸を披露している。選考委員会は、杵屋 勝国氏が長唄三味線の代表的な音楽家として、長唄界を牽引している功績を極めて高く評価するものである。

(音楽賞邦楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

福岡県生まれ。東京藝術大学音楽学部卒業。6歳の時に杵屋勝寿女師のもとで三味線を習い始め、10歳で杵屋寿太郎師に入門、また七代目杵屋勝三郎師に師事する。初舞台は、1955年福岡電気ホールにて『多摩川』を演奏。14歳で杵屋 勝国の名を許される。1982年にジャパソサエティ75周年記念アメリカ公演に出演のほか、デンマーク政府招待による独奏公演、ハワイ、ヨーロッパでの長唄演奏公演など、海外での活動も行っている。歌舞伎界では、1980年浅草公会堂での『鷺娘』、『伴奴』で初めて立て三味線を務めた。その後、坂東玉三郎丈、故十八代目中村勘三郎丈の歌舞伎舞踊で常時立て三味線を務めており、そのほか多くの歌舞伎公演や長唄演奏公演、テレビ・ラジオにも出演するなど、幅広く活躍している。また、『末広』、『百千鳥娘道成寺』、『隅田川』の創作・作曲も行い、『長唄名曲全集』や『日本舞踊曲大全集』などのCD、DVDが出版されている。

現在、一般財団法人杵勝会理事長、長唄くにね会主宰。

◆ 主な受賞歴 ◆

1971年 九州長唄作曲コンクール 1位

2009年 松尾芸能賞邦楽優秀賞

2014年 文化庁長官表彰

3. 第48回 JXTG音楽賞 洋楽部門本賞

池辺 晋一郎 (いけべ しんいちろう)
作曲



©東京オペラシティ文化財団 撮影:武藤章

◆ 贈賞理由 ◆

池辺 晋一郎氏は、東京藝術大学在学中の1966年に日本音楽コンクール第1位となったのを皮切りに、以後、わが国の作曲界を代表する一人として力強く歩み続けて半世紀を越えた。今や作曲だけでなくホール等の事業、関連団体の役職、著作、メディアなどを通じて、日本の音楽活動の健全な発展に大きく寄与する重要な存在となっている。これまでに発表された作品では、全10曲におよぶ交響曲などの器楽曲のほか、特にオペラ、合唱曲などの声楽作品は幅広い層に普及して親しまれている。常に社会との関わりの中で表現を追求する姿勢が、シリアスな世界やドラマティックな表現力の確かさ、ユーモラスな味わい、叙情的な感情の掘り下げ、日本の近現代史への鋭い切り込みを生むなど、幅広い表現世界に結び付いている。これまでの業績を高く評価するとともに、今後の活躍を期待してJXTG音楽賞洋楽部門本賞を贈る。

(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

茨城県水戸市生まれ。東京藝術大学、同大学大学院修了。池内 友次郎、矢代 秋雄、三善 晃の諸氏に師事。1996年より2009年3月までの13年間、NHKテレビ「N響アワー」の司会を担当し、好評を博した。現在、東京音楽大学名誉教授、全日本合唱連盟顧問、横浜みなとみらいホール館長、東京オペラシティ・ミュージックディレクター、石川県立音楽堂洋楽監督などを務めている。作品には、交響曲No. 1～10、ピアノ協奏曲No. 1～3、チェロ協奏曲、オペラ『死神』、『鹿鳴館』、『高野聖』をはじめ、管弦楽曲、室内楽曲、合唱曲など多数あり、また、映画『影武者』、『楢山節考』、『うなぎ』、『スパイ・ゾルゲ』、『劔岳・点の記』、テレビ『独眼竜政宗』、『元禄繚乱』など多数の映画、ドラマ音楽の他、演劇音楽約470本を担当している。著書に『空を見ますか1～8』、『モーツァルトの音符たち』、『オーケストラの読みかた』などがある。

◆ 主な受賞歴 ◆

- 1966年 日本音楽コンクール作曲部門第1位
- 1968年 音楽之友社作曲賞
- 1971年 ザルツブルク国際テレビ・オペラ祭優秀賞
- 1976年 イタリア放送協会賞(他2度)
- 1980年 日本アカデミー賞優秀音楽賞(他8度)
- 1991年 尾高賞(他2度)
- 2001年 第53回放送文化賞
- 2004年 紫綬褒章

4. 第48回 JXTG音楽賞 洋楽部門奨励賞

小倉 貴久子 (おぐら きくこ)
フォルテピアノ



◆ 贈賞理由 ◆

小倉 貴久子氏は日本を代表するクラヴィーア奏者である。しかも、フォルテピアノという古楽器の名演奏家として広く知られている。これまで、『音楽の玉手箱』、『ベートーヴェンをめぐる女性たち』などを展開、現在は『モーツァルトのクラヴィーアのある部屋』をシリーズ化して興味深い演奏会を提供し続けている。また、その一方では、ソロ、室内楽、協奏曲などバロックから近・現代まで幅広いレパートリーで演奏活動もしており、浜松市楽器博物館コレクションシリーズの録音での演奏も高い評価を得ている。2013年の『輪舞(ロンド)～モーツァルトの輝き～』の他、これまでCDを40点以上リリースし、そのいずれもで、典雅で優美な演奏によりフォルテピアノの世界をさらに親しみ深い存在とする役割を果たしてきた。この領域におけるこれまでの業績を高く評価するとともに、今後のさらなる活躍を期待してJXTG音楽賞洋楽賞奨励賞を贈る。

(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

岩手県一関生まれ。東京藝術大学を経て同大学大学院修了。アムステルダム音楽院を特別栄誉賞を得て首席卒業。各ホール主催公演や音楽祭、NHK『クラシック倶楽部』、『ぴあのピア』、『名曲探偵アマデウス』、『ららら♪クラシック』などへの出演や、NHK『カルチャーラジオ 芸術の魅力～モーツァルトが会った音楽家たち』の講師を務める。浜松市楽器博物館主催の録音やコンサートも高い評価を得る。これまでにCDを40点以上リリースし、それらの多くが朝日新聞、毎日新聞、読売新聞などの各新聞紙上や「レコード芸術」誌等で推薦盤や特選盤に選ばれている。著書に『カラー図解ピアノの歴史』(河出書房新社)などの共著や監修が多数ある。2004年度より東京藝術大学古楽科非常勤講師を務めている。「フォルテピアノ・アカデミー SACLA」主宰。現在は、『小倉貴久子の《モーツァルトのクラヴィーアのある部屋》』シリーズコンサートを開催している。

◆ 主な受賞歴 ◆

- 1989年 第3回日本モーツァルト音楽コンクール ピアノ部門第1位
- 1993年 ブルージュ国際古楽コンクール アンサンブル部門第1位
- 1995年 ブルージュ国際古楽コンクール フォルテピアノ部門第1位、聴衆賞
- 2013年 2012年度(第67回)文化庁芸術祭賞レコード部門 大賞
- 2018年 2017年度(第30回)ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門 独奏・独唱部門賞